龍馬が駆けた河原町

―河原町史跡スポット―

Welcome to 京都

河原町商店街振興組合
京都市中京区河原町六角下ル山崎町258
TEL.075-221-6418 FAX.075-221-6459
E-mail info@kyoto-kawaramachi.or.jp

河原町商店街の情報は携帯でもご覧いただけます。

河原町商店街のホームページ「ぐるりウォークかわらまち」のURL http://www.kyoto-kawaramachi.or.jp/

制作／河原町商店街振興組合　デザイン・構成／株式会社アイ・オー・ワン

本能寺（ほんのうじ）

応永22年（1415）創建時は「本応寺」と書く。

「本能寺の変」天正10年（1582）で焼失。この当時は油小路蛸薬師通りにあった。

信長亡き後、天下人となった豊臣秀吉の転地命令で天正20年（1592）現在の地へ。

本能寺は、応仁の乱の後、京都復興に尽力した町衆の大半が法華宗門徒であったことからその本山として繁栄。

■御本尊：日蓮が定めた久遠常住具足の南無妙法蓮華経の曼荼羅

■国宝：伝藤原行成筆書巻

■重要文化財：花園天皇宸翰御賀札銅鏡

■見どころ：織田信長廟 浦上玉堂の墓

誓願寺（せいがんじ）

浄土宗西山深草派の総本山。

天智天皇（飛鳥時代）の勅願所として奈良に建てられた。鎌倉初期に京都の一条小川（元誓寺町）移転。その後豊臣秀吉の寺町整備により天正19年（1591）現在の地へ。

■御本尊：阿弥陀如来

■重要文化財：絹本著色誓願寺縁起 木造毘沙門天立像（平安時代）

■見どころ-1：江戸時代「落語の祖」とされる第55世安楽庵策伝上人が、教訓や風刺を交えた千余りの説教話など、仏教説話を集めた「醒睡笑」を著した。これが後生落語のネタ本となった。

■見どころ-2：我国最初の人体解剖を行った山脇東洋もここに眠る。

■見どころ-3：門前左にある有名な石造「迷子道しるべ」（月下氷人石＝仲人役の石）。右側に「教しゆる方」、左側に「さがす方」とあり、明治中期、迷子や落とし物など、この石に紙を貼って連絡し合った。

誠心院（せいしんいん）

新京極六角請願寺のすぐ南。天正年間に秀吉の命で、小川通りの一条上ルから現在地に移転。初代住職はあの平安時代の歌人和泉式部。

■通称：和泉式部寺

■見どころ：和泉式部の墓塔（高さ4m。正和2年（1313）銘の宝篋印塔）

■御本尊：阿弥陀如来と二十五菩薩、式部千願観音、百八観音、神変大菩薩

■御利益：式部千願観音は万人に御利益を施す聖観音菩薩。

蛸薬師堂〈永福寺〉（たこやくしどう）（えいふくじ）

京の通り名に歌われる「姉・三・六角・蛸・錦」の「蛸」が蛸薬師通り。この通りの北側に位置する。

■御本尊：薬師如来

■名前の謂われ：この寺が室町二条蛸薬師町にあった頃、境内の池の中之島に安置していたので、水上薬師、または沢（たく）薬師と呼んでいたのが誤って蛸薬師になったとの説もある。

■御利益：病気平癒

坂本龍馬・中岡慎太郎遭難の地〈近江屋跡〉

（さかもとりょうま・なかおかしんたろう そうなんのち）

河原町通蛸薬師下ル西側。ここに醤油商「近江屋」があった。

慶応3年（1867）11月15日、坂本龍馬と盟友中岡慎太郎は京都見廻組・佐々木唯三郎らの襲撃を受け闘死。龍馬はほぼ即死。中岡は数日後死去。大政奉還が行われた1ヶ月後のことであった。

龍馬は、物騒になってきた京都の町で、万が一のために「酢屋」（龍馬の寓居）から土佐藩邸に近い「近江屋」に移ってわずか1ヶ月程のことであった。

錦天満宮（にしきてんまんぐう）

通称「錦の天神さん」。「錦市場」の東の突きあたり。新京極通。

千年の歴史を持ち、秀吉の転地命令で現在の場所へ移り、社名も「錦天満宮」となった。

■御利益：知恵・文学・商売繁盛の神様

■見どころ：珍しく鳥居の額束が山形で、上（笠木）の両端が民家の建物に入り込んでいる。

京都まちなか交通・観光案内所

交通と観光に関する情報を提供!

日本語以外に英語・中国語・韓国語の3カ国語の案内を実施し多国籍対応ができます。

交通マップの配布や路線案内、また日曜日には京都検定合格者のガイドによる河原町周辺の社寺・史跡を訪ねるウォーキングツアー（有料）も実施しています。

開所時間：午前10時～午後6時

定 休 日：毎週火曜日、12月29日～1月3日

電話番号：075-231-8812

河原町通（かわらまちどおり）

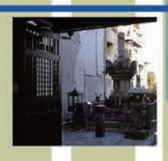
河原町通は、京都の中でももっとも変化が速く、時代を先取りしている通りです。

戦前は、ぶらぶら歩きと言えば鴨の河原ではなく、河原町通りをぶらぶら歩く「河ぶら」でした。

豊臣秀吉の京都大改造の天正18年（1590）ぐらいから道らしきものが出来はじめ、河原町通りは当時「お土居」の東端にあたり、そこから先は文字通り鴨川までの広い河原でした。

慶長10年（1610）の角倉了以の高瀬川開削が都市化の開発をすすめるきっかけとなりました。

明治以降ますます開発が進み、大正に入ると市電「河原町線」が開通。京都の南北のメイン繁華街となり、流通の要となり、今日の姿が現れました。



一之舟入（いちのふないり）

「高瀬川」は慶長16年（1611）頃、角倉了以が開いた運河。今に残る「舟入」はこの「一之舟入」だけ。復元された高瀬舟が一隻川波に浮かんでいる。

■舟入とは：高瀬舟の荷物の上げ下ろしや舟の方向転換するための船溜所。かつては四条まで9カ所あった。

池田屋騒動跡碑（いけだやそうどうあとひ）

「新撰組」がこの事件によって広く世間に知られるようになったとされる「池田屋」の跡地にある碑です。

■どんな話？：元治元年（1864）6月、三条小橋（高瀬川）西詰の北側の旅籠「池田屋」に集まった長州藩士（土佐・肥後）らが新撰組の襲撃を受け、多数の死傷者が出ました。この事件が契機となって7月の「蛤御門の変」へとつながる。

新撰組の組長近藤勇は、死者の遺体を近くの三条河原へ放置。4年後戊辰戦争中、新政府軍に捕らえられ、板橋処刑場にて処刑。関東から首級だけ大坂の千日前に運ばれた後、京の三条河原に梟首された。

酢屋・坂本龍馬寓居跡（すや・さかもとりょうまぐうきょあと）

酢屋は享保6年より現在までつづく、創業280年の材木商。酢屋嘉兵衛は龍馬の活動に深く理解を示し、その援助に力を注いでいた。

幕末には大阪から伏見、京都へと通ずる高瀬川の木材の輸送権を独占して、非常に繁盛していた。

高瀬川ぞいには各藩の藩邸が建ち並び、各地との連絡にも好都合であったため、龍馬はここを海援隊京都本部にした。

龍馬は『酢屋』の人々から「才谷さん」と呼ばれ、二階の表西側の部屋に住んでいた。

瑞泉寺（ずいせんじ）

三条小橋（高瀬川）東詰の南側。

慶長16年（1611）高瀬川を開削していた角倉了以によって「秀次悪逆塚」と刻まれた石塚が偶然発見された。瑞泉寺は、了以が幕府に願い出て、豊臣秀次公とその一族の御霊を弔うため建立した、浄土宗西山禅林寺派の寺。

石塚は「畜生塚」とも呼ばれていた。境内には今も香の煙が絶えない。「なんであのようなことが…」への思いを今に伝える清楚なお寺である。

■どんな話？：世継ぎが出来ない豊臣秀吉は姉・とものの子秀次（ひでつぐ）を養子にし、関白にしたが側室淀殿との間に我が子秀頼が生まれると次第に煩わしい存在となった。文禄4年（1595）秀吉は、秀次を聚楽第（じゅらくだい）から伏見城へ呼び寄せ、高野山へ追放し、自害させた。三条河原に秀次の首級をさらし、大衆の面前で秀次の正室、側室そして幼児39人を処刑した。

土佐稲荷神社（とさいなりじんじゃ）

昔の鴨川は河原が広く、川中に中の島があった。ここに備前国西大手村の新右衛門という男が移り住んで、島の岬に祠を建て、岬神社と称したのが始まり。

後村上天皇（1348）より以前のこと。

その後、神祠は鴨川の西岸に遷されたが、慶長年間この地は土佐藩に下賜されて、土佐稲荷と俗称されるようになった。

■御祭神：稲魂神（うかのみたまのかみ）
猿太彦命（さるたひこのみこと）
大宮乃賣命（おおみやのめのみこと）

配祀：石榮神（いしさかえのかみ）

明治の廃藩で社殿も荒廃していたが、明治18年氏子の有志等祭典永続法を設定して、私祭継続の認可を得、下大阪町に無格社として復興した。

大正2年完成したのが現社殿である。

■御利益：諸行繁栄福利
火難を免れる
土木建築修工を守護
一切の災厄を免れる

南座（みなみざ）

寛永17年（1670年）の鴨川護岸工事にともない、幕府は多くの芝居小屋を四条河原町の東に集めた。鴨川の西にあった芝居小屋もこの時に移転。

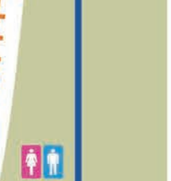
元和年間（1615～1623年）幕府公認の芝居小屋は七座あった。その後六座になり、文化文政の時代に北座と南座の二座だけになり、明治27年以降北座もなくなり、南座のみが残り、現存する日本最古の劇場となった。

南座はかって「南の芝居」と呼ばれてた。昭和4年に現在の外観に。

北座の役者達は新たな活路を東京に見い出した。

南座の西側には、歌舞伎の祖とされる出雲の阿国の「阿国歌舞伎発祥地」の石碑があり、南座筋向かいの四条大橋東詰北側に「出雲の阿国」が踊っている像がある。

■年中行事：11月30日から顔見世興行



先斗町（ぽんとちょう）

変わった地名の多い京都で「ぽんと町」はその代表格。

寛文10年（1670）加茂川の西岸に堤防を築き、高瀬川との間を埋め立てて護岸工事が完成し、川に沿って数軒の町家ができはじめました。

近くに南蛮寺が在り、その影響でポルトガル語の「ポント」（先、先端→岬）が町名になったと云われています。

江戸後期には遊里に。今は京都五花街の一つとして春には「鴨川をどり」の芸舞妓で賑わっています。細いこじんまりとした御茶屋建築（夏は床）。この町の石畳には京の情緒が溢れています。